

□■養成所ニュースプラス第 45 号 2025□■

1 月末にかけての気温は、全国的に「平年より高い」見込みだそうです。寒暖差にはお気を付けください。試験まで 9 日となりました。時間ばかりが過ぎるように感じるかもしれません。しかし、皆さんは、それぞれのやり方で準備を進めてきました。変わることなく、一日一日を積み重ねていきましょう。

今回の人物に関する○×問題は「相談援助の基盤と専門職」（現、ソーシャルワークの基盤と専門職）、「相談援助の理論と方法」（現、ソーシャルワークの理論と方法）からの出題です。今回も選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるか合わせて考えてみてください。

なお、国家試験キーワードチェック 1 学期「相談援助の基盤と専門職」の問題 10（※）に間違いがありました。この時期に大変申し訳ありません。詳細は HP に掲載している解答を更新しましたので、確認をお願いします（URL は Yoseijo Info に掲載しています）。

※丸数字が文字化けするため算用数字で記載しています。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法○×問題】

1. ピンカス（Pincus,A.）とミナハン（Minahan,A.）は、生態学的視座に立ち、人が環境の中で生活し、社会的にも機能していると説いた。【33 回問題 98】
2. ホリス（Hollis,F.）は、パーソナリティの変容を目指し、人と環境との間を個別に意識的に調整すると説いた。【33 回問題 98】
3. バートレット（Bartlett,H.）は、人々が試みる対処と環境からの要求との交換や均衡を、社会生活機能という概念で説いた。【33 回問題 98】
4. シュワルツ（Schwartz,W.）は、グループワークの 14 の原則を示し、治療教育的グループワークの発展に貢献した。【33 回問題 113 改変】
5. ロス（Ross,O.）のコミュニティ・オーガニゼーション説は、地域における団体間調整の方法としてのインターグループワークを提唱した。【32 回問題 101】

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(35 期生) 住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(36 期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・第 35 期生 国家試験キーワードチェック（1 学期）に一部誤りがありました。←New
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439858&c=3246&d=99c7>

■Test Info・・・・・・・・

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第 37 回国家試験は、令和 7 年 2 月 2 日（日）です。
詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439859&c=3246&d=99c7>

※試験時間、試験科目（午前・午後の内訳）が公開されました。

- ・第 37 回国家試験から適用する社会福祉士国家試験合格基準並びに総試験時間数が公表されました。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439860&c=3246&d=99c7>

・本養成所主催、「受験対策講座」は web にて開催中です。

全ての「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」が視聴可能です。また、12月20日（金）に国家試験直前対策講座（有料）の講義動画の視聴が開始となりました。是非ご活用ください。

受験対策ページへアクセスはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439861&c=3246&d=99c7>

※12月26日（木）に3本目の「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」動画並びに「第36回国家試験受験アンケート」の抜粋を公開しました。

※「国家試験直前対策講座（有料）」については、受講確定者に対してご案内（受講確定通知）を郵便及びメールにて送付しています。

※「国家試験直前対策講座（有料）」について、教材の一部に訂正があります。1月9日（木）に専用ページ内にて訂正表を公開しました。ご確認ください。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439862&c=3246&d=99c7>

・本養成所では、皆さんの後輩にあたる第37期生の出願を受け付けております。

現在、3期募集を受付中です。皆さんの周りで社会福祉士取得を目指している方、関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非とも本養成所をご紹介しますようお願いいたします。

出願手続き等についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439863&c=3246&d=99c7>

資料請求についてはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439864&c=3246&d=99c7>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→<https://a02.hm-f.jp/cc.php?t=M1439865&c=3246&d=99c7>

■Plus Column

【受験対策ミニ講座第19号／先輩からのメッセージと体調管理（食事の留意点）】

試験に向けて踏ん張り続ける皆さんに先輩の経験談をご紹介します。

◆試験日の2週間前から不規則な生活は止め睡眠を確保した。◆「シンプルでわかりやすく、コンパクトなもの」を直前まで繰り返し読んだ。→ふくし合格ネットのPDF教材、国家試験キーワードチェック・頻出項目チェックテスト、メルマガの問題をコピーしたノート、書き込んだ年表、自分の要点整理ノート等。◆勉強する時は、スマホは別の部屋に置き集中する環境を作った。◆直前は、試験当日使う時計をして時間を計って問題を解いた。◆当日会場で見直した2か所、前日に確認した2か所が試験に出た。最後の最後まであきらめないこと。

先輩からのメッセージを受け止めていただけましたか。

次は、今日から試験日までの食事の留意点をお伝えします。

脳の栄養となるブドウ糖類（ごはん、パン、麺類）、免疫力維持に体を温めるもの、そして、疲れた胃に負担をかけないよう消化の良いものを取るようにしましょう。特に、前日は、好物だからと生ものをたくさん食べたり、験担ぎで豚かつ等の油の強い物を食べるのは避けたいものです。

当日午前中は科目数も多く試験時間も長いので、消化の良い温かい朝食をしっかりと取ることにしましょう。一方、午後の時間は短いので、昼食は軽いもの、食べ慣れたもので済ますのが無難です。神経が高ぶると空腹さえ感じないものですが、集中力保持のため、チョコレートやドライフルーツ等糖度の高いものを選ぶのも工夫のひとつです。急な血糖値上昇は眠気を呼ぶので、食べ過ぎには気を付けてください。

19科目合計3時間45分間の試験は、身も心もへとへとになります。最後は、体力、気力の勝負です。十分に気を付け

て万全の体調で試験に臨みましょう。

いよいよ次回は試験直前号です。当日の留意点と持ち物についてお伝えします。

【Plus Quiz・・・・・・正答と解説】

この2科目では、選択肢に5人の人物名が並ぶ問題が出題されてきました。「受験対策ガイダンス」動画でもふれたように、人物名を入れ替える作問タイプなので消去法で正解に近づくことができます。36回のピンカスとミナハンのように、単独問題で人物の理論や実績が問われても、人物と実績が結び付けられていれば対応も可能です。

年明け3回のメルマガで15人（誤りの選択肢の解説を含めば27人）をお届けしました。人物と実績はなかなか覚えられないとも聞きますが、直前に集中して覚えてください。

1. ×選択肢はジャーメインの説明で、生態学の視点をソーシャルワークに取り入れ生活モデルとして体系化しました。ピンカスとミナハンは、システム理論を活用し、ソーシャルワーカーの実践をチェンジ・エージェントシステム、クライアント・システム、ターゲット・システム、アクション・システムにより説明しました。
2. ×選択肢はリッチモンド（Richmond,M.）によるソーシャルワークの定義の説明です。ホリスは、「状況の中の人」という視点を、「人」「状況」「人と状況の相互作用」という三方向からクライアントとその状況を分析しました。リッチモンドのケースワーク理論は、治療モデル（診断派）を経て、ホリスの心理社会的アプローチへ引き継がれました。
3. ○バートレットは、「社会福祉実践の共通基盤」を著し、実践形態が多様でもすべての社会福祉に共通する構成要素は、価値・知識・介入（調整活動）の3つで、その均衡が保たれることでソーシャルワークはその機能を発揮できるとしました。
4. ×選択肢は、コノプカ（Konopka,G.）の説明で小集団がもつ治療的機能に着目しました。シュワルツは、個人と社会の相互作用に焦点を当て、ソーシャルワーカーの役割をメンバーとグループの媒介者や情報提供者とし、相互作用モデルを提唱しました。
5. ×インターグループワークは、ニューテッター（Newstetter,W.）が提唱した手法です。ロスは、「地域組織化説（統合説）」を提唱し、地域内外の資源を見出し、住民の参加や意思決定と団結で地域社会の問題解決過程を重視しました。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus